# 私の故郷の紹介

内モンゴルは中国の北部に位置し、総面積は118.3万 k m³。その内、草原面積は87万 k m³。人口は2,284万人で、モンゴル族は約<math>11%を占める270万人。その他漢民族、ダウル族、オロンチョン族など490民族が暮らしています。

気候は西北特有の大陸性気候で、夏でも涼しいため、夏がベストシーズンです。内モンゴルは海抜1,000m以上に位置し、その中に果てしなく続く内モンゴル高原があります。この高原の牧草地は、中国の牧草地の四分の一を占める中国で一番大きい草原です。内モンゴルは森林資源が豊富で、そのほとんどは東北部の大興安嶺(だいしんあんりん)の北に集中しています。西に行けば行くほど、緑が少なくなり一番西のところは砂漠地域になっています。

内モンゴルの中心都市フフホト市は、中国の北の境にある歴史の古い都市です。フフホトは北京から約670キロメートルのところにあり、現在では内モンゴル自治区の区都として政治・経済・文化の中心となっています。全国的に有名な企業「内モンゴル乳業社」など、乳業メーカーが多い都市です。

フフホトはモンゴル語の「青色の都市」という意味から「青い城」とも呼ばれています。これは1587年にアルタン・ハーンが、街を囲む城壁を築く際に、青色のレンガを使ったことに由来するとされています。



馬

遊牧に生きるモンゴル牧畜民の馬への思いは、日本人の想像をはるかに越えた深いものがあるように思います。馬は騎馬民族として誇りであり、心の安らぎであると思います。「モンゴル人は馬上で育つ」といわれます。そんなことわざを生む世界、馬とモンゴル人の生活は切っても切り離せません。モンゴル人はどこへ出かけるにも、まるで下駄でも引っ掛けるような気安さで馬に乗ります。

#### オボー祭り



草原には小石が高く積み上げられ、木の枝や布切れがはためいている場所があります。これをモンゴル語で「オボー」と言います。空高く積まれた石には、「天に近くなればなるほど、神様に近い(神聖な)場所」という意味が込められていて、小高い山の上や峠によく見られます。オボーを祭るには、まず柳の枝をたて、それにハダク(絹の布)やヒーモリ(馬の絵とチベット語の経文の印刷された布)を結びつけてオボーを飾り付けた後、西方で香を焚きます。通りがかった人は円錐形に積まれた石の山に、石を投げながら右回りにお参りします。モンゴル最古の宗教的伝統のひとつとされています。

### 草原の遊牧民のゲル

遊牧民族の伝統的な移動式住居をモンゴルでは「ゲル」といいます。ゲルは組立式の細い棒の骨組みで天井を作り、屋根と周囲をフェルトで覆う簡単な住居です。ゲルの材料は骨組みの木材以外、すべて家畜から得たものを利用しています。



ゲルは必ず南側に扉がつけられます。中央には煮炊きする暖炉、ドアから一番奥の北側が主人の位置で、入って右側は女性や子供の場所で台所にあたります。 左側が男性やお客様の場所で馬具などがおかれています。草原で暮らす遊牧民にとって、ゲルとは「草原に建つ家」のことをさします。ゲルは基礎を造った固定式の家屋と違って、移動するための分解・組立が簡単に出来る用に工夫された家なのです。大人2人が約1時間で組み立てることが出来、解体後は牛車で運び

ます。外側は風に対処するために円形で屋根に向かって流線形をしています。そして夏は壁際の裾をめくって風を通し、冬はフェルトを重ねるなどして防寒することができます。

### モンゴルお茶



モンゴルのお茶――「スーテーチェー」は「チャイ」とも呼ばれるミルクティーです。磚茶(だんちゃ)と呼ばれるレンガ状に固めたお茶を砕いたものを煮立て、塩とミルクを入れて作ります。シャルトスというバターのようなものを浮かべて飲んだりもしますが、いわゆるバター茶とは異なります。さらに好みによって煎り栗(あわ)、乾燥チーズ、砂糖などを入れて飲むこともあります。

http://www.fukuoka-pu.ac.jp/kiyou/kiyo15\_1/1501\_hao.pdf

http://www.dir.co.jp/souken/consulting/report/strategy/csr/08110501csr.pdf#search=' 中国の環境問題'

http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat082j/mat82j.pdf#search='中国の環境問題 日本への影響'

http://www.soka.ac.jp/soka/common/pdf/17\_keizai1.pdf#search='中国の環境問題 日本へ

## の影響'

MB10005 劉奇

2011年9月13日

劉奇